

# 目 次

第3版のはじめに  
第2版のはじめに  
はじめに  
数学付録

## 第1章

### 社会調査とは何か

❖ 調査法, はじめの一步 ❖

#### 基 礎

- 1 社会について「正しく」知ること…………… 001  
社会データの重要性/社会データのリテラシー
- 2 社会調査の定義…………… 004
- 3 私たちの社会調査との関わり…………… 006
- 4 調査目的による社会調査の分類…………… 007

#### 発 展

- 1 公的統計と統計調査…………… 010
- 2 国勢調査…………… 011
- 3 社会調査の困難…………… 012
- 4 社会調査士制度と調査倫理…………… 013  
〔資料〕一般社団法人社会調査協会倫理規程

## 第2章

### 社会調査の種類

❖ 質的調査と量的調査とは? ❖

#### 基 礎

- 1 社会調査を分類するさまざまな軸…………… 018  
調査の方法と分析の方法/統計的調査と非統計的調査・標本調査と事例調査

2	量的調査と質的調査	020
	量的調査／質的調査	
3	質的調査の特徴	022
	語られたものや語ることの重視／調査者と調査対象者の関係の重視／ 調査の継続性・反復性とラポール／信頼性と妥当性についての考え方	
4	Mixed Method	028
<b>発 展</b>		
1	全体とケース選択	029
2	さまざまな水準での「量的／質的」区別	030
3	客観性・信頼性	030
4	エスノグラフィーの質の基準としての厚い記述	031
5	「質的／量的」という区別への批判	031

### 第3章

## 社会調査のプロセス

❖ アイディアから後かたづけまで ❖

### 基 礎

1	調査の全体像を把握する	033
2	それぞれのステップについて理解しよう	036
	構想・計画／準備／実査／データの入力と点検／分析／報告／ データの管理	

### 発 展

1	複数の調査を組み合わせでデザインする	042
2	調査プロセスを総合的に管理する	043

### 第4章

## 社会調査のデザイン

❖ 因果分析を念頭に調査を設計するには？ ❖

### 基 礎

1	何を知りたいのか	046
	リサーチ・クエスチョンを育てる／記述的な問いと説明的な問い／変 数と分布	
2	どのように検証するか	049

因果関係とは／疑似相関と変数の統制／理論仮説・作業仮説とその検証／測定信頼性・妥当性

### 発展

- 1 仮説を正確に検証するにはどうしたらよいか…………… 055  
反実仮想モデル／無作為割付実験と重回帰分析／選択バイアスと母集団の設定／調査類型の選択
- 2 より良い調査研究とは…………… 058
- 3 既存研究の探し方…………… 059

## 第5章

### 実査の方法

※ どのようなデータ収集法を選べば良いのか? ※

### 基礎

- 1 データ収集法選択の基準…………… 062  
調査票調査におけるデータ収集法の重要性／データ収集法を選ぶ基準
- 2 さまざまなデータ収集法…………… 065  
調査員の関与の程度／他記式調査／自記式調査
- 3 適切なデータ収集法の選択…………… 073

### 発展

- 1 コンピュータ支援型調査の普及…………… 074
- 2 インターネット調査の問題点…………… 075
- 3 Mixed Mode…………… 077

## 第6章

### 調査票の作成

※ 質問の作成からレイアウトまで ※

### 基礎

- 1 調査票の作成について学ぶ理由…………… 079
- 2 調査票はどのような構成をとるか…………… 080
- 3 質問の作成にいたる手順…………… 081
- 4 どのような質問形式を選ぶか…………… 082
- 5 質問を作成するときの留意点…………… 084  
曖昧な表現を使わない／ダブルパーレル質問をしない／難しい用語を

使わない／誘導的な表現を使わない／黙従傾向に注意する

- 6 質問の配置にかんする留意点…………… 087  
回答者の心理的負担を小さくする／キャリアオーバー効果に注意する  
／回答選択肢の順序に注意する

**発 展**

- 1 ワーディングが回答に影響を及ぼす実例…………… 090  
2 調査票のレイアウト…………… 090

第7章  
サンプリング

❖ 対象者はどのように選べば良いのか？ ❖

**基 礎**

- 1 なぜ対象者の選び方が重要なのか…………… 094  
標本調査の必要性と役割／ランダムではない種々の抽出法  
2 無作為抽出法…………… 096  
すべての人を同じ確率で……／無作為抽出標本だけにできること  
3 標本抽出枠とカバレッジ誤差…………… 099  
4 実行可能性や利便性への配慮…………… 101  
多段抽出／訪問費用の抑制と誤差の増大／地点の選び方と最終的な個人  
の抽出確率／系統抽出  
5 層化抽出…………… 104  
6 無作為標本からの乖離…………… 106

**発 展**

- 1 名簿を使わないサンプリング…………… 108  
2 系統抽出の実際…………… 108  
3 事前の重みづけと調査後の調整…………… 109

第8章  
調査の実施

❖ 郵送法・個別面接法・インターネット調査 ❖

**基 礎**

- 1 郵送法実査を運営する…………… 112  
2 郵送法の手順…………… 113

事前予告／電話での対応／調査票と依頼状の送付／回収／督促（催促）／フィードバックとお礼

## 発 展

- 1 個別面接法実査を運営する…………… 119  
事前の準備／調査員のトレーニング／訪問と面接／調査員の管理
- 2 実査の「良い結果」とは…………… 122  
回収率について／実査の方法研究の必要性
- 3 インターネット調査…………… 123  
インターネット調査の位置づけ／インターネット調査の技法  
〔資料〕事前予告状

## 第9章

### データの電子ファイル化

※ 大切な正確性と一貫性 ※

## 基 礎

- 1 データの構造化の流れ…………… 130
- 2 実査の前のコード化…………… 131  
コード体系（コード構造）の構築／有効でない回答／多項選択方式のコード構造
- 3 実査におけるコードの適用…………… 135
- 4 実査終了後の作業…………… 136  
調査票のエディティング／データの入力／データファイルのエディティング（データクリーニング）
- 5 アフターコーディング…………… 141  
後からコードの適用を行う／後からコードを構築する

## 発 展

- 1 コーディングの容易なものや難しいもの…………… 143
- 2 二重データ入力による入力ミスの検出…………… 144
- 3 データの重みづけと補定…………… 145

## 第10章

### データの基礎的集計

❖ たくさんの情報を要約する ❖

#### 基礎

- 1 変数の種類…………… 146  
尺度の水準による変数の分類
- 2 質的変数の要約…………… 149
- 3 量的変数の要約…………… 149  
代表値／散布度／ばらつきを考慮して比較する／中央値に対応するばらつきの指標とグラフ

#### 発展

- 1 歪度と尖度…………… 158
- 2 質的変数の散布度…………… 159

## 第11章

### 統計的推測

❖ 見えない「全体」に対する想像力 ❖

#### 基礎

- 1 理論的に推測するために…………… 161
- 2 標本抽出分布…………… 162
- 3 標準誤差…………… 164  
標準誤差と信頼区間／未知の母分散の推定
- 4 母平均の区間推定とは…………… 166  
不偏分散とt分布／信頼区間の式と標準正規分布／t分布を用いた信頼区間の式／信頼水準と信頼区間の幅
- 5 統計のテストをします…………… 170  
帰無仮説と背理法／検定の具体例と一般形／目に見える誤りと目に見えない誤り

#### 発展

- 1 推定の精度と母集団の大きさ…………… 176
- 2 特定の信頼区間の当否…………… 176
- 3 分散にも標本抽出分布がある…………… 176
- 4 両側検定と片側検定…………… 177

5	検定と区間推定の関係	177
---	------------	-----

## 第12章

### 変数間の関連

❖ データを分析する ❖

#### 基礎

1	変数間の関連を探るとはということか	179
2	変数の種類と分析方法	180
3	散布図の作成と相関係数 散布図の作成／相関係数	181
4	クロス表の作成と関連の指標 クロス表の作成／関連の指標と独立性検定	184

#### 発展

1	相関係数の検定	192
2	生態学的誤謬	192
3	重回帰分析	193

## 第13章

### 調査報告とデータの管理

❖ 調査のフィナーレもしっかりと ❖

#### 基礎

1	調査結果の公表 調査結果公表の意義／調査結果公表の方法	195
2	報告書の作成 報告書全体の構成／調査レポートの書き方／図表の作成	196
3	報告書の配布	200
4	データの適切管理 個人情報保護への関心の高まり／回収原票の保管／回収原票の廃棄／ 組織としての管理	201

#### 発展

1	研究および調査に関する倫理 剽窃／個人情報保護と匿名化／研究の再現	204
2	データの利用	205

3 公的統計の公開..... 206

## 第14章

### 社会調査の意義と今日的課題

❖ 私たちはいま何を考えるべきか？ ❖

#### 基礎

1 社会調査の困難..... 208  
抽出台帳閲覧制限問題／回収率低下問題／調査不能の理由／一時不在と調査拒否の背景

2 社会調査への協力..... 212  
調査の社会的利益／社会のなかでの社会調査／社会調査への協力

3 データと分析の質の問題..... 215  
問いの高度化による困難／無作為抽出ができないときの対応

4 社会調査を学ぶ意義..... 217

#### 発展

1 調査者－被調査者の関係..... 218  
ある調査拒否の例／似田貝－中野論争／中野に対する安田のコメント

2 社会調査の実像とその小史..... 221  
海外の先駆的調査／日本の先駆的調査／横断的調査／比較調査／繰り返し調査／パネル調査

文献リスト

事項索引